

代表取締役
奥山 恭之

エネルギービジョン

第46回

雑草対策は継続性が大切



上：枯れ草が残る「放置された発電所」／下：夏以降、雑草が伸びた発電所



——「その場しのぎ」ではなく 1年間のスケジュールで対応を

進してしまう。1年間の雑草のサイクルを考慮した上で、どのようにコントロールするかスケジュール化するべきだろう。

そういう意味では、雑草が枯れている今の時期に、来年の春以降の対策を考えておきたい。

本連載第44回（2019年9月6日発売・第140号）で千葉県

の状況を報告したい。2つの低圧発電所が隣接しており、1つは春に草刈りし除草剤も散布したところ、もう1つはまったく管理されておらず「放置された発電所」だ。8月時点では、その差は明確で雑草対策を「する」と「しない」でここまで違うか、という印象を受けたが、その後、4カ月でどう変わっただろうか。

まず「放置された発電所」は、相変わらず手入れされておらず、枯れた雑草がそのまま残っている。ススキやセイタカア

ワタチソウは立ち枯れしていて、パネルの上を這っていたツタもそのまま枯れている。当然、発電量に大きな影響を与えているだろう。

春に除草剤を散布したところは、それ以降は何もしていないようで、残念ながら雑草が成長してしまっていた。秋に成長する雑草を軽視する向きもあるが侮ってはいけな

ので、大きくなる前に定期的に散布することが望ましい。夏の時点ではうまくコントロールできていたので、それを継続していれば秋の雑草がここまで育つことはなかっただろう。やはり、年間スケジュールを立て先手で対策を施していくことが効果的だ。

太陽光発電所の運用管理において最も大きな影響があるのは、雑草対策

と言っても過言ではない。しかし、その場しのぎの「生えたら刈る」とり、結果として成長を促

いう対策では、刈られることで草はより強くな

の某発電所の8月時点の雑草事情を紹介したが、12月に再訪問したのでそ

雑草が生えにくい土壌にする除草剤は、効果を発揮できる期間は長くて

も6カ月程度。成長してからでは効きが悪くなる

適切なものを適切に施工しなければ耐久年数がごく短くなったりもするので、使う際には十分吟味

総合・太陽光

していただきたい。